

氏名： 杉田 孝夫
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 教授
学位： 文学修士（1978 東京教育大学）
専門分野： 政治学、西洋政治思想史、
E-mail： sugita.takao@ocha.ac.jp
URL： <http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/A3EB7B9B-7F0D-4281-9108-02D75C42957A.html>

◆研究キーワード / Keywords

西洋政治思想史／ドイツ啓蒙／ドイツ観念論／カント・フィヒテ・ヘーゲル／家族と市民社会
History of Political Thought in Europe / German Enlightenment / German Idealism / Kant・Fichte・Hegel / Family and Civil Society

◆主要業績

- ・(訳書) &O0a;フレデリック・C. バイザー著・杉田孝夫訳『啓蒙・革命・ロマン主義？近代ドイツ政治思想の起源 1790-1800?』法政大学出版局,2010年3月,全756頁.&O0a;
- ・(論文) &O0a;「『ドイツ国民に告ぐ』はどのように読まれ、どのように読まれなかったのか」『フィヒテ研究』(日本フィヒテ協会編)第17号,晃洋書房,2009年12月,60頁-74頁所収.&O0a;
- ・(翻訳) &O0a;ディーター・シュヴァーブ著,杉田孝夫・田崎聖子訳「家族の概念史」(II)『生活社会科学研究』第16号,2009年10月,81頁-96頁.&O0a;
- ・(口頭発表) &O0a;

Rechtslehre bei Fichte und Schelling

&O0a;Internationaler Fichte-Kongress: Wissen Freiheit Geschichte. Die Philosophie im 19.un 20.Jahrhundert. 7.Oktober 2009, Academie Royale des sciences; des Lettres et des Beaux-Arts de Bruxelles.(Belgie)

◆研究内容 / Research Pursuits

ドイツ啓蒙とドイツ観念論の政治思想史研究

(1) とくにカント、フィヒテ、ヘーゲルの政治思想の諸問題をかれらの共通枠組みである「自由と共同性」の位相を同時代的文脈の中で再検討し

、その歴史的固有性を明らかにする作業を行っている。

(2) 第二の主題として、カント、フィヒテ、ヘーゲルの家族観を、ドイツにおける「近代家族」の形成過程を示すテキストと捉えて、家族の構成と機能を分析し、同時代の社会構造の転換とどのように構造的に連関するものであるかを明らかにする作業をおこなっている。この作業は必然的に家長のものと近代家族と家長を主体とする近代社会の構造的秘蔵を明らかにするものであり、近代におけるジェンダーの思想的作為性と歴史性を明らかにする作業でもある。

(3) 以上の二つの側面からの研究によって現代社会における自由と共同性をめぐる問題状況を克服する理論的展望を得ることを目指している。とくに政治思想史の立場から個の生成と家族と市民社会の構造的連関を研究している。

I am chiefly interested in the intellectual history of modern Europe, and with this area I specialize in two related fields. One is the political thought of Modern Germany, especially German Enlightenment and German Idealism. The other is the genesis of Modern Family concept in Germany.

◆教育内容 / Educational Pursuits

基礎講義「政治学入門」では、市民のための政治学という観点から、現実の政治過程を事例に取り上げつつ、政治の意味と機能をできるだけわかりやすく、講義した。

学部講義「生活政治学 I」「生活政治学 II」では、第 2 学年を主対象に、現代デモクラシーの主体である生活者市民にとって必要な政治学の基礎理論を講義した。

学部講義「比較家族思想史」ではヘーゲル『法の哲学』をテキストにヘーゲル家族論における近代家族観としての特質を講義した。

学部演習「生活政治学演習 I」「生活政治学演習 II」では、ジョン・ロック『統治二論』を講読した。

大学院演習『生活政治論』『生活政治論演習』ではカント『人倫の形而上学』の「法論の部」の「私法」の部分の逐語的に講読した。

I lecture on Scope and Theory of Political Science, and on the foundation of Modern Civil Society and Family., and run two seminar. One is for the Theory of Civil Society(in undergraduate senior course) and another for intellectual history of Europe(in postgraduate course).

I have supervised Intellectual History in Modern Europe as well as in Modern Japan. I am also interested in the questions of the public and the private and gender, which are new perspectives in politics.

◆研究計画

- (1) フィヒテ全集『第 16 巻 封鎖商業国家論』および『第 17 巻 ドイツ国民に告ぐ』の担当部分を仕上げるのが当面の仕事である。
- (2) 『ドイツ観念論の家族観—ドイツにおける近代家族概念の成立—』および『フィヒテの政治思想』をそれぞれ一冊にまとめたいと考えている。
- (3) ドイツ啓蒙の思想家のうち、ヤコービとフンボルトの政治思想、およびフンボルトのジェンダー論については、18 世紀ドイツ思想を理解するうえで重要な対象であるにもかかわらず日本ではまったく手つかずの状態にある。ドイツ観念論の政治思想史研究に一区切りついたならば、ヤコービとフンボルトの研究を行いたい。

◆メッセージ

政治学は古来教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学は役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれた原因はそのような伝統に起因します。しかし統治者＝被治者の時代であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。

政治の世界は、人間が生きている間は絶えず試され、問い続けなければならない実践知の世界です。そのように考えると私たちはいつでもどこでもなんらかの政治のただ中にいることに気づきます。人生は、そこで得られる疑問や経験を手掛かりにして「善く生きる」ための知の探求の旅です。政治学はそのような旅の指南書の一つと言えます。